



2011年3月11日 東日本大震災、障害のある人と支援者の物語。

星に語りて

Starry Sky

きょうされん40周年記念映画

松本 勲 監督作品

出演 / 妻田禎子 蛭雪次朗 今谷フトシ 植木紀世彦 枝光利雄 菅井玲 入江崇史 宮川浩明 生島ヒロシ 赤塚真人
製作統括 / 西村 直 企画 / 藤井克徳 脚本 / 山本おさむ 音楽 / 小林洋平 プロデューサー / 新井英夫
撮影 / 鈴木雅也 照明 / 古橋孝映 録音 / 西岡正巳 美術 / 津留啓亮 編集 / 古賀陽一 スクリプター / 山下千鶴
衣裳 / 杉本京加 ヘアメイク / 清水美穂 ラインプロデューサー / 赤間俊秀 助監督 / 佐藤 吏 制作担当 / 富田政男
制作プロダクション / ターゲット 製作 / きょうされん (2019年 / 115分)



2011年3月11日
 障害者の状況と
 支援者の活動を描く
 劇映画

舞台の一つは、岩手県陸前高田市。高台にある共同作業所「おおざり」では、津波の直接的な被害は免れたものの、仲間の一人を失って落胆する利用者たちを女性所長が励ましなが、一日も早く障害のある人が日常を取り戻せるように一歩を踏み出そうとしていた。また、全国障害者ネットワークでは、東京、秋田、岩手、福岡など全国のグループが連携して支援活動を始めようとしていた。そんな矢先、「障害者が消えた」という情報が入ってきた。多くの避難所をまわっても、障害のある人の姿がほとんど見当たらないというのだ。

一方、福島第一原子力発電所事故によって避難を余儀なくされた地域の一つ、南相馬市では、避難できずに取り残されている障害のある人の存在を知った共同作業所「クロスロードハウス」の代表らが、自らの手で調査に踏み切ろうとしていた。被災地各地に支援センターが設置され、次々と支援物資が送られ、全国各地から支援員が集まってきた。しかし、各地の障害のある人の安否確認を進める中で、彼らに立ちはだかる障壁があった。それは、個人情報保護法によって開示されない、障害のある人の情報だった。法律によって守られる人権と、一刻を争う人命救助との狭間で苦しむ支援者たち。全国障害者ネットワークでは、この障壁を打ち破る手立てを模索していた。



『きょうされん』では、これまでに4回の映画製作・上映活動を続けてきましたが、40周年記念事業として製作された、今から100年前に精神病者を救おうと奔走した呉秀三の功績を描くドキュメンタリー映画「夜明け前」に次ぐ5回目の今作品は、大災害時における障害のある人の状況と支援者の活動を描く劇映画です。

2011年3月11日午後2時46分18秒、宮城県の牡鹿半島東沖で発生したマグニチュード9.0のわが国観測史上最大の地震。東日本大震災による傷跡は、未だに人々の心の中に深く刻まれています。しかし、1万8千人を超える死者の中で、障害のある人の死亡率が全住民の2倍だという事実を知る人は少ないの

ではないでしょうか。この映画は、当時を知る証言者たちへの取材に基づき、その知られざる実情を山本おさむ氏の脚本と新進気鋭の松本勳監督によって描き出す群像劇です。実力俳優優陣に加え、障害当事者を出演者として起用し、ヒューマニティあふれるドラマが進行します。

脚本 山本おさむ(長崎県出身の漫画家)

代表作:「そばもん ニッポン蕎麦行脚」「どんぐりの家(日本漫画家協会賞優秀賞)」「赤狩り」

監督 松本勳

(石井隆・松尾昭典・山崎貴・高橋伸規らの助監督を経て、近年では大林宣彦の監督補佐を務める傍ら、中・短編映画を撮り続け、各映画祭等での受賞数多数)

日時: 2021年9月11日(土) 14:00~16:00 (受付13:30)

場所: 長野市生涯学習センター(トイゴ)4階 第2・第3大学習室

主催: NPO法人ポプラの会 後援: 長野県ピアサポートネットワーク

チケット: 当日販売(受付にて) 障がいのある方...500円 その他の方...1,000円

お願い: コロナ感染予防の為、密を避け、換気を行います。

手指の消毒、検温、マスクの着用をお願いいたします。

尚、チケットはなるべく釣銭の無い様をお願いいたします。

お問い合わせ: NPO法人ポプラの会 電話 026-219-2780 (月~金 10:00~17:00)